

所沢の語り部講座「山口観音」 & 本堂

2019-2-11 記 池田 衛

■実施日：2019-2-7（木） ■参加者：28 名（他サークル 4 名） ■集合場所：西武球場前駅改札口
■講座場所：割烹「狭山」・山口観音 金乗院

■「山口観音」講座： 講師：所沢の語り部 安田好子 11:35～12:05

山口観音からほんの数分の場所にある割烹「狭山」で行いました。パワーポイント映写のため、白紙で大型テレビサイズの映写幕を用意しましたが、大画面が得られる薄茶色の壁で代用しました。



講座は、まず山口観音の正式な呼称の説明です。山号：吾庵山、院号：金乗院、寺号：放光寺。豊山派の寺で、総本山は長谷寺（奈良県）、東京の大本山は護国寺、その他として西新井大師等全国に 3,000 寺、僧侶 5,000 人、檀信徒 200 万人。徳川幕府の庇護を受けていました。

豊山派の教えとして「一つ得るには 一つ捨てること」があり、これは「小欲知足」が大切という仏教の教えを説いています。

山口観音は奈良時代、行基により開山されました。行基は、禁を破り直接民衆への仏教活動を行った僧侶です。社会活動（主に近畿）として、困窮者のための布施屋の設立、道路、橋の修築を行いました。

聖武天皇により、奈良の大仏造立の責任者として招聘されました。

東大寺の本願主聖武天皇、開基の良弁（ろうべん）、導師の菩提僊那（ぼだいせんな）そして勧進の行基を加えた四人が東大寺四聖（しょう）と言われ、行基が4聖の一人となっています。

金乗院の本堂は江戸時代の僧侶「亮盛」によって造営され、梵鐘や開山堂も建立されました。現在は狭山三十三観音の一番札所で、一年を通して参拝者が訪れています。

金乗院の本尊は、千手観音です。千住観音の沢山ある手は、人々を漏らさず救おうとする観音の慈悲と力の広大さを表してます。表観音は秘仏で、33 年に一度御開帳されます。平成 29 年度が 33 年目にあたり、4 月 29 日～5 月 1 日 一般公開されました。

本堂の裏側に安置されている**裏観音**は所沢市指定文化財になっています。お参りに訪れればいつでも見る事が出来ます。お賽銭に硬貨を入れますと、チャリン〜と澄んだ音がします。

檜材の寄せ木作り総高 77.2 cm、観音像の中では小型の部類に属します。造立年代は鎌倉時代と思われる。市内では、最古にいちづけられる仏像の一つとして貴重な存在です。

本堂に飾られている**絵馬**のいくつかを紹介します。

① **六歌仙大絵馬**（市指定文化財） 石川文松（ぶんしょう） 1798～1857

作者の石川文松は寛政 10 年（1798）青梅に生まれ、絵師を志して谷文晁（ちょう）に師事し、文晁と生活を共にしながら画技の修行を積みます。

晩年の約 20 年間は生地の子梅を離れ、勝楽寺村や三ヶ島村で絵師として生活を送りました。

師匠の谷文晁は若いころ豆腐屋を営んでいたので豆腐屋文晁の異名があります。

板の画材に銀箔を押した上に六歌仙が極彩色で描かれています。和歌の上達を祈願する人の求めによって揮毫（きごう）されたものと考えられます。

② **煙草屋図大絵馬**（市指定文化財）

江戸時代後期の煙草屋の店先が描かれています。墨書きによると、武州入間郡所澤村の七五郎、辰五郎、久蔵、文蔵、豊次郎、伊助が観齋という絵師に依頼して、文化 2 年（1805）に奉納したものと思われる。

③ **富士巻狩図大絵馬**（市指定文化財） 三上分箴（ぶんせん） 1798～1857

文政元年（1818）頃、所沢市下宿に生まれました。谷文晁に師事して絵を学び、所沢や江戸を中心に活動しました。特にペリー提督来航の時には黒船絵巻などを描き世評を得ました。

源頼朝が富士山麓で催した巻き狩りの様子を、銅の板材に岩絵の具で描いた大きな絵馬です。大勢の人物と獲物が雄大な富士山を背景にして、克明に描写されています。

人物や動物は小さいながらも、細かい筆致で顔の表情や動作を写実的に表現しています。絵の具の剥げ落ちがありますが、比較的保存状態も良く、色彩も綺麗です。



六歌仙大絵馬



煙草屋図大絵馬

本堂の**鳴き竜の絵**は良雪の筆で、日光の鳴き竜と共に有名です。天井の一部は鳴き天井になっていて、静かな時拍手をすると琵琶の音色に似たビビ〜ンというエコーがあり、なかなか凝った天井です。

本堂に入ってすぐ左側に撫で仏（おびんずる様）が座っています。撫でると自分のその部分の病や、悪いところが治るといわれています。

本堂の外側の壁にマニ車（マニワ）がはめ込まれています。この鐘はネパールで作られたブレイベルと言います。108個設置されていて、これを手で回しながら本堂を一周してくると、お経を一冊読んだ功德が得られるといわれています。

■割烹「狭山」での昼食： 12:10～13:15

予め注文していた狭山メインの釜飯ほか、天もりそば、月見とろろそばの昼食を堪能しました。

■本堂における講話：金乗院住職 田中政樹 様 13:20～14:15

住職とは予め安田さんの講座の内容を伝え、なるべくダブらないような法話を聴かせて頂きました。

資料：①山口千寿観音縁起、②狭山丘陵観音の里 狭山観音霊場めぐり、③武蔵野観音めぐり

本尊は千手観音菩薩、本尊様の左に毘沙門天、右に不動様、更に聖観音様等多くの仏像が祭られています。本堂は宝暦年間に再建され、屋根は茅葺きから銅葺きに葺き替えられました。

資料で渡された狭山観音霊場めぐりでは、金乗院が一番札所。武蔵野観音めぐりでは十三番札所になっています。

驚いた話は、現在、私たちが座っている場所は、昔は参拝者が自由に出入りしていたが、本堂に寺の関係者が常駐できなくなったため、管理上締めきることにしたそうです。

本堂内部での鳴き竜体験のため、天井画の下の畳は外されています。住職に促されて、各人鳴き竜の体験をしました。本堂内の絵馬の説明では、懐中電灯で画面を照して解説して頂きました。

■住職による境内案内： 14:15～14:30

まず裏観音を参拝した後、大日堂脇の泉に案内されました。この泉は弘法大師が草堂を結んだ頃に湧き出た泉で、加治水のいわれを話されました。泉中央の弘法大師の御手から加治水が湧き出ています。

泉の縁に田中政樹住職が平成21年(2009)開眼された八体の尊守護仏が安置されています。干支の守護仏様ですので、各人の干支の守護仏様を探してお参りして下さいとのことでした。

住職から、寺の施設を自由見学して下さいとのことのお言葉により、泉の場所で解散しました。



本堂での講話



加治水の泉前での講話

■所沢の語り部講座について：

野老澤の歴史をたのしむ会は、発足以来 10 年目を迎えています。今日までサークル会員による自主講座はありましたが、「所沢の語り部」の肩書での講座は今回初めてです。

Wikipedia によりますと「**語り部**」とは、『昔から語り伝えられる昔話、民話、神話、歴史などを語り伝えている人を指している』とあります。安田さんは、生涯学習をすすめる所沢市民会議が平成 28 年度から実施している語り部養成講座「ところ学」養成コースの一期生です。当サークルには、筆者を含めて養成講座修了者は 3 名居ります。語り部の充足を図り、内輪の語り部としてでなく、地域社会に所沢の歴史を語り伝える目論見が必要と考えられます。

担当 A グループ 池田 衛 西脇英夫 高橋佐和子 田沼幹子 田口 靖 寺脇 隆
恩田正子 安田好子